議　事　録

１．会議の名称　　池田市３Ｒ推進センター指定管理者選定・評価委員会
２．開 催 日 時　　平成３０年１０月１２日（金）１４時～１７時
３．開 催 場 所　　池田市役所　６階　第３会議室
４．出　席　者　　≪委員≫◎三輪 信哉、上野 浩文、山品 圭一、衛門 昭彦、根津 秀徳
※会長：◎
≪事務局≫池田市環境政策課
課長 島野寛喜、主任主事 國安裕子、主事 中島悠輔
５．議　　題
３Ｒ推進センター指定管理者の選定について

６．議 事 経 過

◆応募者によるプレゼンテーション
応募者：特定非営利活動法人　いけだエコスタッフ（１団体）

提出している資料はほとんどが団体に関する資料なので、事業計画書について説明させていただきます。
エコミュージアムを９年半管理運営してきましたが、今回は次の５、１０年間を見据えた事業として提案させていただきます。
事業計画書の「背景・課題」についてです。取り巻く環境として変化したことは、温暖化が社会問題として日常の中に影響を及ぼしてきたということ、また、経済活動の面では、エコミュージアムでやってきたリユースショップ、民間でいうと「リサイクルショップ」に当たるサービスの台頭が挙げられると思います。我々は池田市環境基本計画の達成のため、民間団体や地域団体、企業とのパートナーシップのもと、年間４万から４万５千人の来館者を呼び込み、一定の意識向上や意識改革に貢献してきたと思っています。しかしながら、施設の認知度がまだ１００％ではなく、また、エコミュージアム＝リユースショップのイメージが強くあり、その他の講座やリサイクル推進事業との認知度の格差が大きいことが課題であると感じています。また、愛称である「エコミュージアム」の「ミュージアム」の機能が活かしきれていなかったという反省もあります。
次に、「ビジョン」についてですが、「健全で強靭な社会システムを提案する」としています。このビジョンを達成するため、施設を「共に考え活動する人たちが集う、社会的に意義があるちょっと質の高いライフスタイルを共に作る場」としていますが、特に「共に創り上げていく」がキーワードとなると思っています。運営の軸は我々エコスタッフになりますが、多くの人に参加していただき、共に創り上げていく人たちとのパートナーシップを大切にしたいと考えています。まずは、手軽に興味が持てる分野で集っていただいて、勉強、交流を

重ねながら、環境に興味をもっていただくという。公共施設ですので、施設のターゲットは当然市民全員ですが、この「共に創り上げる」メインターゲットとしては、２０代から４０代の子育てしている男女、また、様々な事情から、スキルがあるけれど今は社会から離れている人、そうした方を想定しています。

次に、「資源循環・３Ｒ」についてですが、リユースショップの形態は継続しつつ、モノのメッセージ性を強める、モノからモノ、人から人、というふうに名称を「つながるショップ」に変えています。また、博物館にも展示を見終わった後に訪れる「ミュージアムショップ」がありますが、「つながるショップ」とは別に、地元の方が作ったものや環境に配慮したもの、リユース品ではなく新品のもの、後ほど説明する工房で作られたものなどを売る「ミュージアムショップ」を設置します。これまでの継続事業として、リユース食器レンタルや「ゆずります・ゆずってください」という物品のマッチング事業も行っていきます。

次に、「よみがえる工房」についてですが、「リユース、リペア、リメイク」、これは３Ｒよりももっと細かい分野になりますが、リユース品の中には、そのままで使えるが少しほころびているもの、ボタンが取れかかっているものなど、手を加えれば魅力的に、今使いたいものに生まれ変わるのではないかというものがあります。こうしたものに手を加えるのが「よみがえる工房」です。第一段階としてはファブリックを考えていて、ミシンやアイロンを使って洋裁や和裁が得意な人に手直しをしていただいて価値の高いものに作り変えるという。家でミシンをわざわざ出して修繕するのが大変なので修繕せずに捨ててしまって新しいものを買うという方もいますので、ミシンとアイロンを施設に常設して市民の方に使っていただけるようにして、愛着を持って衣服を使用してもらうライフスタイルを創り上げていきたいです。その中で利用者との交流、これまでの講座、ワークショップを行っていく、裁縫技術を次の世代へバトンタッチするということを考えています。ファブリックが軌道に乗れば電子製品や木工製品に対象を広げていきたいです。

「うまれかわる工房」については、これは完全な廃棄物を、技術を持ったアーティストやデザイナーに作り変えてもらう、服飾系の専門学校生などともコラボしながらアート作品を作っていくというものです。その他、リサイクル推進のための廃油回収、ペットボトルキャップやプルトップなどの資源回収も行っていきます。

次に、これまでエコミュージアムではやってこなかった「食」を柱とした快適な適応策についてです。「〇〇カフェ」としていますが、〇〇に入る言葉としては「マイクロプラスチック」「地産地消」等、様々なテーマを想定していて、見た目はテーブルと椅子がある普通のカフェとし、毎月でテーマを絞って飲み物とフードを提供します。このテーマについての勉強会や、知識を得ながら語り合う場を設けたいと思っています。また、料理教室も年に数回開催したいと考えています。エコミュージアムには料理できる場所はありませんので、他の会館を利用します。今エコミュージアムでは地元産の野菜も販売していますが、変わった野菜だと、食べ方が分からないお客さんから料理方法などを聞かれて困ってしまうのですが、次は地元の野菜を使うメニュー提案もやっていきたいと思っています。

次に、「地域社会・国際社会へのアプローチ」についてですが、ＳＤＧｓ達成に向けたチャレンジとして、カフェ、工房のスペースを利用してＳＤＧｓの一つのテーマを選んで、研究

会、ラボを開き、まずはＳＤＧｓを知っていただき、考えて行動していただくことに繋げていきたいと考えています。これまで、エコミュージアムではＳＤＧｓを表に出してやってきたわけではなく、その概念は後からやってきた訳なのですけど、これまでエコミュージアムがやってきたことはＳＤＧｓに当てはめて考えることもできます。まずはＳＤＧｓを知っていただくために身近なテーマから入って、話題提供者としては地元の地域の事業者、経営者を想定しています。例えば、サカエマチ商店街でネイルサロンを営んでいる３０代女性の経営者がいるのですが、将来は新興国でネイル技術を女性に教えて女性に生計を成り立たせる活動をしたいと語っていました。こうしたことは、普通にネイルをしに行くだけでは分からないのですが､思いを持ってお店をやったり事業活動をされている人はたくさんいますので、そういう方たちと夢を叶える活動をできる仲間を作っていくような取り組みができたらと思っています。

管理運営体制についてですが、常勤職員２名とパートタイム職員で運営していきますが、月１回の運営会議を中心に各事業をブラッシュアップしていきます。特に、広報についてはプレスリリースに力を入れていきたいです。

◆質疑応答

委員：非常に多岐にわたる緻密な事業デザインをご提案いただいたと思います。エコスタッフさんだけで完結するにはかなり規模感があるなと思います。実際ご提案いただいている機能を補完する具体的な連携先、思いを共にして動いてくれる連動先は具体的に確保されていらっしゃるのでしょうか。

応募者：地域の中小企業者さんが連携先としては多いです。あとはメインターゲットにあげました２０～４０代の子育て中の女性のチームも連携先としてあげられます。

委員:提案内容を進めていくための組織対応力については確保されているということですね。

委員：提案資料に内装案がありますが、改装の費用はどうなっているのですか。

応募者：指定管理料とは別のところで、我々としては池田市制８０周年事業として外観を変えたいと考えています。内装については、極力費用をかけずにやっていく方針です。この内装案はスタッフがデザインしたものですが、自分達で塗装をやるような、ＤＩＹのワークショップ形式で一般の方々と共に一緒に作っていく、エコミュージアムのイベントに参加していただいて一緒に作り上げるというようなイメージです。

委員：市民の方と一緒に作り上げるというイメージということですね。

会長：リペア、リメイクについては技術を持っている人が集まってこないとできないと思うのですが、人材については予想がついていますか。またその方々に対するペイをどうするかの見通しはあるのでしょうか。

応募者：ペイの見通しが立つかは非常に難しいのですが、技術を持っているとすれば我々いけだエコスタッフのメンバーが技術をもっています。その他、現在講師をお願いしている方にもお願いして、週１回常駐していただくことも考えています。今日来ているスタッフにも裁縫や木工が得意な者がいます。

会長：自前で提供できるということですね。
内装のレイアウトには何案かありますが、これについてはいかがでしょうか？
応募者：とりあえずはどれかを選んで配置することになると思いますが、５年間という長いスパンでやっていくので、途中で変えられるようにしていきたいです。模様替えをしやすいようにはしていきたいと思います。
会長：適宜リノベーションしていくという考えでしょうか。
応募者：リノベーションによるものではなく、模様替え、例えば机を移動させたり、棚が移動できたりというイメージです。
会長：資料の中に「環境都市ＩＫＥＤＡを目指す　モデルはポートランド」とありますが、ポートランドとは交流があるのですか。
応募者：交流は特にありませんが、デザインをするに当たって、まずは目指していく共通了解を得るために、同じ言語を持てるようにと提案したワードです。
会長：池田がこうなったらいいという完成形のようなイメージですか？
応募者：見た目ではなく考え方の方でそうです。施設を可変的につくるということ自体もポートランドというモデルに寄り添った考え方です。提案についても皆で選んでいきながら、他に波及させていって、他のコーナーも変わっていったり、空間も、講座をするときは変えていけたり、ワークショップ形式で市民の方も巻き込んでいくようにして、常に作り変えていけるようなイメージです。
会長：環境都市ポートランドはこういうイメージだという点を３点上げてくださいといったら何をあげられますか？
応募者：自転車で走ることが市民の中に確立されている。エコミュージアムもレンタサイクルをしていますけど、まちのなかに自転車を置こうということと直接つながることではないのですが。具体的な３点を答えるということと外れるかもしれないですが、エコミュージアムに行けば情報が得られるとか、エコミュージアムがやっていることはちょっと格好いいのではないか、可愛いいのではないか、洗練されているのではないかとか、これからエコミュージアムがやろうということが、市民にとって、そんな指針になるように作っていけたらなと思っています。
会長：ポートランドとの姉妹都市提携とかになるといいですね。ポートランドといえば、私のほんのささやかな知識なのですが、有機農業がとても盛んな、都市と農村の中間くらいのまちで、それらを「循環」によって結び付けている、繋いでいる。アメリカで一番住みたい町であるけれど最近移民が増えて困っている。そのようなイメージがあります。そういうイメージでポートランドをあげられたのかなと思いました。
応募者：本当はそういうことを言うつもりだったのですけれど、言っていただいてありがとうございました。その辺を勉強して、書かせていただきました。
会長：そうですか、良かったです。
委員：今までの委員さんからの指摘で、広報が弱いという指摘があったと思いますけど、具体的に何か考えているのでしょうか。また、市が一緒にこうしてもらったらこんなことができるとか、何かあれば言っていただければ。

応募者：これまでの情報誌を配ることは地元の方や特にシニアの方にはそれが一番の情報源となると思うので続けますが、ウェブを使って動画の作成に今後力を入れたいと考えています。動画といってもＣＭ程度の数秒間のもので、まずは雰囲気を伝えていきたいです。何をやっているかということがダイジェストで分かるように。例えばユーチューブでチャンネルを持つとか。ラジオ、テレビへのプレスリリースも力を入れて行っていきたいです。なるべくどんどん情報を流して、メディアを使っていくということも今後やっていきます。

委員：去年、取材を受けてテレビに出たりしたこともあったと思います。そういうのを使っていくのもよいと思います。あと、危機管理体制について、今年、台風や地震がたくさんあって、その辺の反省点にもなりますが、もっと具体的にどういう対応するか決めておいてもらうと良かったかなと思います。これは市とも決めていかないといけないのかもしれないが、指定管理施設となれば、市民の方は「市の施設」として見ますので、そういうマニュアルもしっかり作っていただければと思います。

会長：計画にあるビジョンのなかで「健全で強靭な社会システムを提案」とありますが、強靭という言葉は最近はやりの言葉で、「強靭な社会システム」というのもセットで入る言葉のようになっていますが、このミュージアムを通じて具体的にはどのような社会が現れてくるといいと思っていますか。

応募者：今年の災害を通じて、もしかしたらこれかなと思ったのが、人のつながり、地域の方たちの顔が見える、顔が見える範囲があって、そこがつながって、情報を補完していくという。情報の補完のハブとなるのが、池田の地域、商店街の中でいえば、エコミュージアムに位置づけられるというようなイメージです。

会長：人と人とのネットワークが、さまざまな社会や経済、環境の変動にかかわらず持続的に継続するようなネットワークづくり、こんなイメージでしょうか。これが先ほどの危機管理体制にもつながると。ネットワークづくりというのが強靭につながると。「ネットワークをつくる」というのが今回のポイントなのかなと思いました。

それでは、以上でプレゼンテーションと質問を終わらせていただきます。

（応募者退室）

◆指定管理者の選定

委員：新しい専門的な人材をスタッフに入れて改善していこうという姿勢は良かったと思います。危機管理に関しては少し疎いのかなとも思います。選定されたあかつきには、その辺は改善してほしいと思います。あとは、地域との連携と、利用者からの苦情なり意見なりをどう反映していくのかが気になるところです。ＳＤＧｓについては、市単位では大きすぎる話になりますし、漠然としているので、さっき応募者からの説明にもありましたが、これまでやってきたことを見直して、それがどのようにＳＤＧｓに貢献してきたのかとか、しっかりそれを続けていくことがＳＤＧｓにつながってい

くのかなという感じもしました。リメイクの話もありましたが、エコスタッフさんには幅広い年齢層のスタッフがいて、色々な技術を持った人もいますが、技術スタッフを自分のところに抱え込まなくても、シルバー人材センターと連携するとか、ＮＰＯ同士で連携するとかもやっていったら面白いかなと思いました。全体的には非常に細かく色々なことを考えられていて、労力を惜しまずにしっかりやっているなと。基本的に池田に住んでいる方たちが中心でやっていただいているのでありがたいなと思います。

委員：前回、我々が評価をして、課題に感じていた部分を指定管理者の方でも理解していて、その辺を切り替える提案をいただけているのかなと感じています。これだけの指定管理料のわりに、といったら申し訳ないですが、非常に手広く事業を提案されていますので、色々な人のつながりもお持ちですから回していけるとは思いますが、初めからガツガツといかずに、５年間で成果をあげていただくような感じでもいいかなとも思います。色々な事業提案をいただいていますが、最終的にはこういう形にもっていけたらと、市も同じ思いを持って、作り上げていけたらいいのではないかという気がします。

委員：以前から環境というテーマで色々な事業をされていましたが、今回のプレゼンでさらにカフェとか工房とか出てきて、手を広げすぎではないかとも思うぐらいですが、ぜひ色々なことにアプローチしていただいて、５年後にどのように評価されるのか、楽しみに待ちたいと思います。

委員：本当によくやってらっしゃるなと思います。ただ、マーケティング設計の経験がある立場からみて、かなり難しいことにチャレンジしているなと思います。それで組織対応力があるかとの質問もさせていただいたのですが、同じように歩み寄ってくれる方たちがあるときいて、安心しました。市との協議の中で絞っていくといいと思うのですが、事業計画書中の「環境」という言葉については、池田市が２０３０年度に達成したいことの優先順位に配慮して、もう少し具体的にしたほうがいいのかなと思います。「賢い消費」という話になってくるのかと思いますけれど、池田市さんでしたら、節約という意味ではなくて、将来も含めた上手な消費の仕方とか、今回提案にあった子育て層に向けて、安心・安全や、教育の領域で「賢い消費」を促すとか、少しフォーカスを絞った方がメインターゲットになるような人たちには響くのかなとも思います。池田市は子育て世代層が人口的に他の市に比べて広くて、２０代もいて３０代、４０代もいて、子育て世代というのがターゲットとしてははまっていますが、そのあたりを攻めていくのは難しいことでもありますので、もう少し「環境」という言葉を具体的にして、子育て世代にアプローチしていくほうが、ネットワークの強化や広がりにより繋がると思います。これは池田市との協議の中で決められたらいいと思います。

会長：今の話で出ましたが、環境基本計画との関係はどうでしょうか。上位計画である環境基本計画との齟齬はないでしょうか。

委員：齟齬は全然ないと思います。基本計画には５つの柱がありますが、外れるものではな

いですね。

会長：上位計画との関係も大事なことだと思います。もうひとつは、子育て世代の話です。若いお母さん方にとって、どのように子どもを育てたらいいか、何を食べさせたらいいか、化学物質はどうなっているのかなど、生命に関するようなことをひりひりと感じておられる部分があると思うんですね。それだけに、そのような心にピンと響いたら環境のほうに関心をもって、流れて来てくださる世代だと思うのですけど、それはＳＤＧｓではないな、と思うのです。その方々に響くのは。ですから、そのことをわきまえていないと、子育て世代にＳＤＧｓと言ってもどういうことですか？となってしまう。身近な身の回りで起こるような現象について響くような内容から入っていくようにする。そういう意味では、ご年配のおじいちゃんおばあちゃんが孫を見るような思いで、子育てはね、という中にちょっと織りこんでいくとか。若いお母さん方が今欲しい情報に応えるような、そうすれば環境にすっと入ってきてもらえるのかなと思うのです。上から情報を与えるとう姿勢では誰もついて来てくれないかと、ちょっと心配するところですね。逆に、若い世代の方々が本当に喉が渇いて飢えているようなニーズにちゃんと合えば、勢いよく広がる可能性があるのではないかと思いました。

委員：ＳＤＧｓについてはゴール目標に近づくことが一般的に言われていて、それが主流化、スタンダード化するとか、そういうイメージがありますが、僕はそういうルールができたことで新しい価値が創造されることに意義があるのかなと思っています。今まで皆さん自分基準でやってきたと。それが世界基準になることで、色々な制約が出てきたことで、工夫をしないといけない。この工夫のプロセスの中に実は色々な価値があり、色々なビジネスモデルが生まれてくると。そこで企業の反応が早いと感じています。よく自治体の方から自治体がＳＤＧｓをやってメリットがあるのかと聞かれるのですが、そういう目標ができることで、自治体内の部門間横断がしやすくなるとか、生産性が高まるきっかけになると感じています。子育て世代については、２０代、３０代、４０代では関心が全く違うということがあって。３０代は子育てが関心のキーになりますけど、４０代ではＰＴＡに関心の的になると。人と人、同じ悩みを持つ人をつなげるホームページとか、子どもをつれてどこに行ったら良いのか、お母さんの口コミで広がるホームページとか、広報はそういうホームページと連動するのも手だと思います。いけだエコスタッフさんがそのようなホームページを運営する会社に情報を提供すれば、積極的に対応してもらえると思います。子育て層がどういうホームページを見ているのか、そういうところと連動することで、十二分な広報が可能だと感じています。その辺りは、いけだエコスタッフさんの実力があればできるかなと思います。

会長：いけだエコスタッフさんの能力の高さをいつも感じているのですけれど、こうした広告とか、マーケティングについては、これから身に着けていかれることなのかなと思います。

委員：「市場を作っていく」という感覚でやられると新しく変わっていくのかなと思います。

委員：今まで、ＮＰＯ法人には独立してほしい、自分達で事業を回していってほしいという

気持ちがありましたけれど、エコ「ミュージアム」という原点に立ち返って、採算性を重視するのか、市民に環境というものを考えさせる、体験をさせる施設にするのか、どちらがいいのか正直迷っているところです。実際、事業費も結構かかっていて。でも、３Ｒ推進センターには「エコミュージアム」という愛称も付いていることですから、施設の位置付けについてもう一度見直す必要があるのかなとも思うところです。

会長：市が施設も提供されていますから、お金のことをいうと恐縮ですが、費用は小さくはない。でも、そこから一つ引き、二つ引き、としてしまうと途端に枯れてしまうことは事実かなとも思います。

それでは、意見も尽きたかと思いますので、採点をお願いします。応募団体が１団体ですので、採点に当たっては事務局から提案があると聞いております。

事務局：価格審査については、自動的に３０点満点になろうかと思いますので、価格審査を除く７０点については、概ね６割以上の４０点を合格ラインとし、価格審査の３０点と合わせ、委員の評価点数の平均が７０点を超えれば合格とすることでいかがでしょうか。

全委員：（異議なし）

（採点）

事務局：点数の平均は、８６．８点となりました。

会長：ここで、委員会から申し伝えることがありましたら、それを添えて候補者にお伝えいただくということになりますが、いかがでしょうか。先ほどの意見交換を踏まえて事務局で何点か挙げていただくこともできますが。

委員：先ほどの意見交換の議事録を事務局でまとめて、こうした意見が出ていたということを指定管理者に伝えて、改善できるところは改善してもらうということでいいのではないでしょうか。

会長：では、意見のまとめは事務局の方でお願いして、それを委員の皆様にも見せていただき確認していただくことにします。以上で審査を終了します。

７．公開・非公開の別　　公開（但し応募者によるプレゼンテーションのみ）

８．傍 聴 者 数　　０名

９．問い合わせ先　　池田市 環境部 環境政策課

（０７２）７５２－１１１１（内線　３７７）

（０７２）７５４－６２４２（ダイヤルイン）

E-mail　kankyo@city.ikeda.osaka.jp